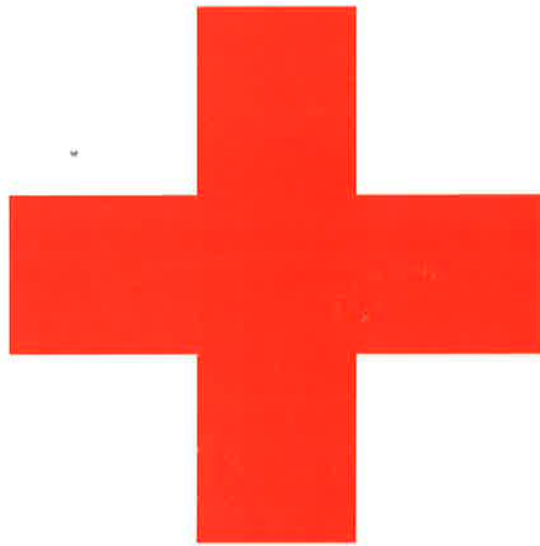


日本赤十字社臨床検査技師会会誌

日 赤 検 査

The Journal of Japanese Red Cross Medical Technology

—— 2004 —— 第38巻 第1号 ——



日本赤十字社臨床検査技師会

目 次

【巻頭言】

千 紫 万 紅	日本赤十字社臨床検査技師会会長 深 田 靖 彦	1
---------	-------------------------	---

【研 究】

乳腺アポクリン癌の超音波像	前橋赤十字病院 久保田 淳 子ほか	2
人間ドックにおけるSAHSスクリーニングの導入	前橋赤十字病院 金 井 洋 之ほか	5
当院におけるNST活動と周術期における栄養アセスメント蛋白の変動について	前橋赤十字病院 関 口 美 香ほか	10
細胞集塊と組織構築から見た内膜細胞診の検討 (セルブロック法との対比を中心に)	前橋赤十字病院 富 澤 一 与ほか	15
針生検材料・微小検体の病理組織標本作製の工夫	原町赤十字病院 富 澤 雄 一	23
核溝を認めた甲状腺好酸性細胞型濾胞腺種の1例	原町赤十字病院 富 澤 雄 一ほか	25
一泊ドックへのTSH導入の効果 —導入後1年間の集計から—	松江赤十字病院 錦 織 昌 明ほか	29
日赤東部ブロック研修会 講演 白血病と悪性リンパ腫の化学療法(分子標的治療を含め)	小川赤十字病院 富 永 一 則	33

【報 告】

第33回北海道ブロック会研修会を終えて	北見赤十字病院 畑 中 宗 博	41
平成16年度日本赤十字社臨床衛生検査技師会業務研修会		42
教育講演会 平成16年度事業運営の実施方策について		43
指定講演 間違いだらけの栄養学		50
特別講演 安全対策について		51
感染症の動向について		61
シンポジウム MRMに関する調査報告		63
検査部インシデントレポートの分析		70
生理検査におけるリスクマネージメント		71
検体検査におけるリスクマネージメントの考え方と実際		75
アンケート		82
ホームページ		83
「日赤検査」PDF化に伴う会誌寄贈協力御礼		84
日赤検査 第1巻より37巻までのお知らせ		85
平成16年度日本赤十字社臨床検査技師会総会議事録		86
学会案内		97
【会 則】		102
【役員名簿】		111
【会員名簿】		112

[巻頭言]



千 紫 万 紅

日本赤十字社臨床検査技師会

会 長 深 田 靖 彦

(松江赤十字病院)

会員の皆様には、益々のご発展、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

早いもので会長職を拝命して3年が経過しました。その責任の重さに潰されそうになりながら皆様方のご支援により何とか今日を迎えることができました。改めて、会員各位に深く感謝申し上げます。

我が国が台風列島、地震列島であることを平成16年ほど思い知らされた年はありませんでした。実際に被災された会員には、心からお見舞い申し上げますとともに一日も早く元の生活に戻れることを祈念致しております。とにかくここ数年、国内外を問わず、まるでギリシャ神話に出てくる“パンドラの箱”が開け放たれ、ありと凡ゆる人間にとっての“災”が一挙に飛び出してきた感じが致します。大変不安なそして何となく重い気分させられます。しかし、その箱の中に唯一“希望”が入っていることを我々は決して忘れてはなりません。

ご承知の通り、国立大学、国立病院の独立行政法人への移行、年金改革、郵政民営化等々、日本再生の為の大きな改革の波が押し寄せてきております。医療においても、例外なく大変厳しい状況に置かれていることに変わりはありません。何れにせよ医療改革も必至の情勢であり、今後、先が読めない状況が当分続いて行くことでしょう。

当会としては、我々を取り巻く環境の変化を的確に把握しつつ、事業展開をして行かなければならないものと考えております。会員の皆様から忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

平成16年度は役員改選があり、新たに選任された新役員は旧役員に劣らずご活躍頂けるものと期待しております。また、総会で会則の改正案が承認されました。“日本赤十字社臨床検査技師会”に名称を変更し、更には、役員も従来の幹事、常務幹事から理事、常務理事に変更され、組織としての体制を一段と整えることができました。これを契機に益々当会が充実発展して行くことを願っております。

今年度の事業については、昨年度に引き続いて患者さまにより安全な医療を提供すべく推進して行きたいと考えております。以前からの懸案事項であります検査統計の標準化を進め、でき得る限り早く着地点を探り出そうと努力しているところであります。この他にも幾つかの事業を抱えておりますが、皆様とともに活発に展開して行ければと思っております。どうかご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

“千紫万紅”会員一人一人が、それぞれの立場できらきらと輝いていれば臨床検査はまだまだ健在で発展して行くものと確信しております。会員各位のより一層のご活躍を祈っております。

終わりに当たって、本会誌の編集に多大なご尽力を頂いた小島行雄(芳賀)、大西一明両常務理事(足利)に深く感謝致します。